

☆練馬区教育委員会教育長賞

『税と私』

練馬区立光が丘第二中学校 三学年 若松 葵

戦国時代―武田信玄や本多忠勝、真田幸村のような勇ましい武将達が戦場で指揮を取り、馬に乗って駆け回る…そんな姿を想像するだけでわくわくする。

私は日本の歴史が大好きで、よく歴史の本や漫画を読んでいる。特に戦国時代が好きだ。

でも、日本の歴史の本を読んでいるとき、ふと思うことがある。それは「昔の日本に生まれてこなくてよかった」ということだ。少し冒頭で言っていたことと矛盾しているけども、懂れることと実際に暮らすことは別である。

なんといっても昔の生活は大変そうだ。特に重い年貢を納めなければいけない。実際戦国時代でどれだけ納めていたのかを調べてみると、だいたいの地域が二公一民といって、収穫の三分の二を年貢として納められていたそう。でも集められた年貢は農民のためになるような形で直接返ってくることはなかったそう。

そして、昔は人口の八割以上が農民だったはずだから、もし自分がその時代に生まれていたらきっと農民だっただろう。重い年貢のせいで生活は苦しく、食事は一日二食で、学校に行くことができず、一日中働き続ける…そう考えるだけでゾッとする。

では、今の日本はどうだろう。

今の日本は「税金＝マイナスな物」という概念が特に強まっている気がする。確かに昔ほどではないにせよ、大人は多くの税を払っているし、増税が行われていたりする。

でも私は「税金があつて良かった」と思っている。なぜなら、私が歴史好きになったきっかけを税金がつくってくれたからだ。

私は小学生の頃、毎日のように図書館にお世話になっていた。毎回歴史の本を借りれるだけ借りて、本でパンパンになったバッグを家に持って帰ってひたすら読む。そんな時間が大好きだった。歴史だけでなく、いろんな本も借りているうちに、本を読むことも好き

になった。

図書館もそうだが、学校や地域のプール、公園、病院なども税金で支えられている、もし税金がなかったら、今のように学び、遊び、成長することができなかったと思う。だから私は税金が身近なものに使われるこの時代に生まれてきて本当に良かったと感じている。

自分は働いたこともないので「税金で社会を支える立派な大人になります！」なんて偉そうなことは言えないし、きつと数年後には「給料からこんなにも税金が引かれるなんて…」と愚痴をこぼしているだろう。

でも今まで税金のおかげで今の自分があることを忘れてはいけない。この私は一倍、税金のお世話になっていると思う。だからその感謝は社会へと返さなければいけない。その気持ちだけは忘れずに将来働いていきたいと思う。